

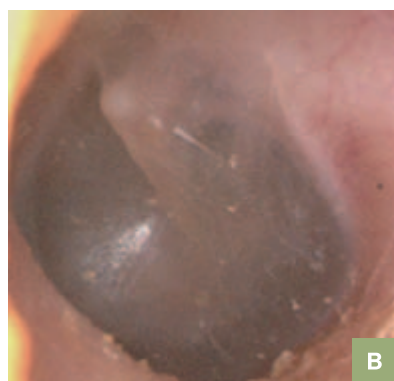


# 急性 中耳炎

委員 工藤典代 医師

一度お子さんが急性中耳炎になった経験があると、かぜをひいて鼻が出てきたらまた中耳炎かも…と心配になりますね。急性中耳炎は鼻からウイルスや細菌などの病原体（感染を起こすもと）が耳管という管を通じて、中耳に入り感染を起こす耳の病気です。

中耳が感染を起こすとどうなるのでしょうか。左の写真Aを見てください。真っ



赤に腫れた鼓膜で、いかにも痛そうに見えますね。正常な鼓膜（B）は薄く透き通っています。鼓膜の内側（鼓室といいますが）に感染が起こると、膿がたまります。鼓室に膿がたまり、鼓膜が腫れると耳がとても痛くなります。ところが、耳だれ（耳漏）がでると痛みはなくなります。耳だれは鼓膜が破れて中からでてきた膿のことです。自然に鼓膜が破れて膿が出る前

に、人工的に鼓膜に小さな穴を開けて膿を出すのが、「鼓膜切開」という治療になります。

治療の基本は抗生物質（抗菌薬）を使いますが、すべての急性中耳炎に抗生物質が必要ではありません。中耳炎にも軽症から重症まで様々です。軽症にはウイルスによる中耳炎があります。ウイルスには抗生物質は効果がなく、自然軽快するといわれています。そのため本当に軽い中耳炎には抗生物質を飲まないで様子を見ることが勧められています。ただし、2歳未満のお子さんは中耳炎が治りにくい場合があるので、より重症と考え、最初から抗生物質の治療対象になることがほとんどです。また、鼓膜の腫れがひどい場合や熱が続いている場合などは鼓膜切開で膿を出します。

急性中耳炎は一回いつかいをきちんと治療すれば難聴などの後遺症を起こすことはありません。しかし、保育所に通っている乳幼児は治りにくく、再発することもあります。何度も繰り返す場合は主治医の先生に相談しましょう。周りに喫煙者がいると中耳炎になりやすく、再発しやすいことも知られています。禁煙をする、かぜの流行時期には人ごみに連れて行かないなど予防も大事です。

# のたばこ

から、  
こどもを  
守りましょう

鈴木修一医師(独立行政法人国立病院機構 下志津病院 小児科)  
委員 山本 重則 医師



たばこの煙には数百種類の有害物質が含まれており、その量はフィルターを通して吸う主流煙よりもたばこの先から出る副流煙の方が多いことがわかっています。大人が間接的にたばこの煙を吸っていると、がんや心筋梗塞、脳卒中、喘息、慢性閉塞性肺疾患など、多くの病気にかかりやすくなります。こどもがたばこの煙にさらされると、低出生体重や乳幼児突然死症候群、かぜ、虫歯、中耳炎、喘息などの病気になりやすくなります。また、身長伸びの低下、落着きのなさを、将来のメタボリックシンドロームとも関係すると指摘されています。世界保健機関はほんの少しいたばこの煙でも体に影響があるとしています。また、こどもは大人よりもたばこの影響を受けやすく、しかもその影響は長く続くと考えられています。ですから、こどもをたばこの影響から守るには、妊娠するころからの配慮が大切です。

たばこの煙は、室内で吸うとなかなか

外に出ていきません。換気扇のそばで吸っても、少なくとも半分は室内に残っています。空気清浄機で一部の物質や、においはとれますが、ほとんどの有害物質は除去することができません。こどもがいない時も室内では吸わないことが重要です。2003年より施行された健康増進法により、飲食店など公共の場では受動喫煙を防止する措置を取るよう定められています。しかし、罰則規定がないため、現在も多くの飲食店では、席を分ける、換気扇や空気清浄機を多く設置するなどの対応にとどまっています。これではたばこの煙からこどもを十分に守ることが難しいことを認識する必要があります。また、たばこを吸うと数時間以上吐く息から煙の成分がでつづけます。たとえ外でたばこを吸ってから室内に戻ってきてても、室内で吸う時ほどではありませんが、こどもはたばこの影響を受けることになりません。

たばこをやめられない原因は、たばこに含まれるニコチンという成分が脳に働きかけてニコチンが体からなくなるとイライラしたりしてたばこを吸いたくなるようにしてしまつたためです。この状態をニコチン依存といえます。最近では、テープやガムでニコチンを補つことで、たばこを吸わなくてもむよみになるお薬が薬局で手に入ります。また、診療所や病院では、たばこを吸っても満足感が得られなくな

## 千葉県医師会 健康教育委員会「健康ひろば千葉」

<http://www.chiba.med.or.jp/kenko/>

### 携帯サイト

<http://www.chiba.med.or.jp/kenko/i/>



## 千葉県内医療施設検索サイトのご紹介

医療施設検索サイトは、右のQRコードからブックマーク登録ができます。ぜひご利用ください。

<http://www.chiba-l.med.or.jp/edicaldb/i/>



る内服薬も処方してもらえます。もし、禁煙したいという気持ちがあってもおありでしたら、ご自身の好みや、副作用などを確かめた上でお薬をためてははいかがでしょうか。一度失敗してもくじける必要はありません。ご家族や医療スタッフ、禁煙できた仲間が応援してくれるはずですよ。インターネット禁煙マラソンという電子メールを利用した禁煙支援システムもあります。

たばこをやめると血のめぐりがよくなる、かぜをひきにくくなる、自信がつく、お金がたまる、医療費が減るなど、よいことがいっぱいあります。もちろん、こどもの笑顔もふえることでしょう。